

# 東京学芸大学 vs 東京農業大学

11月23日(土)  
11:30K.O.  
東国大G

7位の東学大と、3連敗で6位に後退してしまった東農大との対戦。勝点差はわずか1であり、上位グループ入りを賭けた一戦となる。

東学大は前節、駒大と1-1で引き分けた。上位3チームとの対戦は3連続引き分けという結果となり、ここまで後半戦の勝星はわずか2。最終節こそ勝って終わりたいところだ。駒大との対戦は、85分に先制点を許しながら90分に追い付きドローに持ち込んだという展開。西園聡史監督が「前半にチャンスが多かったので決め切らなかった」と話したように、駒大のプレスをかわして攻め込むシーンが多かった前半に得点を奪っておきたかった。後半は押し込まれる時間が多かったが、それでもシュートは3本に抑えた。「強い個性を持った選手が4年生に多いのに、それを生かし合えていない」(西園監督)。優れた技術を得点につなげるコンビネーションを、最終節で見せたい。

対する東農大は前節、神大に0-5と大敗してしまった。東国大と引き分けて以降、上位を争ってきた緊張感がブツンと切れてしまったように連敗、しかも無得点で大量失点を喫している。前節は「メンバーチェンジでリフレッシュしたが…ここまで守備が崩れることはなかつ

たが、今日は気持ちも切れてしまっていた」(秋吉保浩監督)というように、セカンドボールを支配されて攻め込まれ、14本のシュートを浴び5点を献上した。今節はDFライン2人の出場停止が痛い。特に守備の大黒柱であるDF櫻岡徹也(3年)の穴をどう埋めるかが大きな課題。大健闘を見せた復帰1年目、上位グループを死守して終わりたい。

<出場停止>櫻岡徹也・加藤聖哉(東農大)  
<前回の対戦>東学大2-1東農大

東学大	東農大
2. 大里	12. 徳田
14. 佐藤	11. 井上
4. 脇本	15. 小田原
13. 中村	7. 和気
10. 茶島	8. 佐々木
12. 須賀	29. 村山
15. 菅	21. 松尾
3. 成田	10. 浜田
11. 遠藤	3. 田村
18. 五十嵐	18. 今野
5. 廣木	23. 中西

# JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦

**if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM**  
Division2 2013-NO.22  
編集：五味亜矢子 発行：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



## 優勝、残留争いとも最終節決着へ!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、ついに最終節を迎えた。1 部昇格を決めている東国大・駒大による優勝争い、そして都県リーグ降格を回避する残留争いとも、対象チーム同士による最終節の直接対決に持ち込まれた。前節を振り返ると、優勝争いは駒大が東学大と1-1で引き分け、東国大は関学大に1-2で敗れたことで勝点が並んだ。ただし、直接対決で引き分けの場合は東国大が優勝となる。残留争いは、可能性のある4チームが同時刻別会場で戦い、まず平国大が東海大に4-1で勝利して残留決定、対象チーム同士の拓大対法大の対戦は1-2で法大が制し、青学大と1-1で引き分けた朝鮮大と拓大が直接対決で決着をつけることになった(引き分けの場合は拓大が残留)。もう1試合は神大が東農

得点ランキング	アシストランキング
16: 伊東 純也(神大)	8: 長野 祐太(神大)
13: 小牟田洋佑(駒大)	7: 佐伯 拓磨(東国大)
12: 福島 遼(東国大)	碓井 鉄平(駒大)
11: 関谷 祐(青学大)	6: 加藤 龍治(東国大)
10: 富樫 敬真(関学大)	恵 龍太郎(青学大)
9: 堀越 龍也(平国大)	5: 全5名

大に5-0と大勝し、順位を逆転した。個人賞の行方は、前節3得点の伊東純也(神大)が得点王の資格を取得。アシスト王は11アシストが受賞の条件となっている。

## JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第21節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	関学大	青学大	神大	東農大	東学大	平国大	法大	拓大	朝鮮大	東海大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	401	302	100	102	201	101	400	301	201	300(没収)	13	3	5	45	19	26	44
2	駒大	001		200	401	401	302	402	304	200	200	102	401	13	3	5	44	22	22	44
3	関学大	104	002		101	100	200	101	101	401	103	201	201	10	6	5	36	27	9	35
4	青学大	201	101			000	003	400	300	201	201	400	300(没収)	9	6	6	32	28	4	33
5	神大	001	104	200	102			301	203	301	102	205	201	102	102	2	42	35	7	32
6	東農大	201	203	300	101	103		102	103	100	200	101	300(没収)	9	9	3	28	29	-1	30
7	東学大	000	002	001	201	005		11/23	001	003	201	301	300	7	6	8	26	27	-1	29
8	平国大	101	403	003	000	103	301	103		101	302	100	203	7	8	6	28	37	-9	27
9	法大	004	002	102	104	201	001	100	101		102	001	402	7	9	5	35	37	-2	26
10	拓大	601	404	301	305	204	300	101	000		201	000	11/23	5	11	5	32	34	-2	20
11	朝鮮大	103	002	102	001	502	002	102	203	201		102	500	5	11	5	19	34	-15	20
12	東海大	102	201	004	201	102	101	002	001	100	001		401	3	17	1	17	55	-38	10

※白抜き順位は確定。東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

# 東京国際大学 vs 駒澤大学

11月23日(土)  
13:50K.O.  
東国大G

首位・東国大と2位・駒大との、優勝決定戦となった最終節最大の注目カード。東国大が関東2部リーグ初挑戦初優勝という前代未聞の偉業を成し遂げるのか、それとも1部リーグでの優勝3回を誇る駒大がそれを阻止し、劇的な逆転優勝をさらうのか。勝点で並ぶ両者の対戦は、引き分けならば東国大が得失点差で優勝となる。今季最大で最後のビッグマッチの行方はいかに。

東国大は前節、関学大に1-2で敗れ今季3敗目を喫した。試合開始早々に得たPKのチャンスを逃し、後半の点の取り合いで一度は追いついたものの、勝ち越しを許して敗れた。「うちのプレースタイルをわかっていて、そこを潰された。そうしたら違うところで勝利に結びつけなければいけなかった」(前田秀樹監督)。昇格を決めた青学大戦以降は2試合勝利がないが、駒大も引き分けていたため優勝争いの数字上ではこの敗戦は痛くはない。むしろ精神的に引き締まって最終戦に臨めるだろう。独走してきた首位を守ったまま終われるか。

対する駒大は前節、東学大と1-1で引き分けた。押し込みながらもシュートは4本に抑えられ、85分ようやく先制点を奪ったものの90分に追い付かれた。昇格決定後の2連続引き分けに秋田浩一監督は「1-0で

終わる試合を1-1にされるというのは力不足ということ」と話し、「優勝を目指すという気持ちがすべての選手にあったかといえば、そうでないかもしれないのが残念」と嘆いた。しかし、直接対決の優勝決定戦となれば“先輩”の意地もあるはず。後半戦初戦での敗戦以降、5引き分けをはさみながら何とか首位に食らいついてきた。最後の最後に東国大を引きずり下ろせるかどうか。

<出場停止>なし  
<前回の対戦>東国大1-0駒大

東国大	駒大
22. 新地	13. 大木
17. 小玉	17. 平野
5. 川島	9. 福島
10. 若井	5. 伊藤
21. 今野	7. 碓井
14. 上船	9. 小牟田
3. 阿部	30. 吉岡
4. 加藤	6. 若山
11. 高橋	4. 平尾
2. 伊東	11. 小牧
	3. 田中

\* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています\*

体育会学生のための  
**リクナビ就職エージェント**  
自分のフィールドを探そう。  
部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」  
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>  
RECRUIT

# 朝鮮大学校 vs 拓殖大学

11月23日(土)  
11:30K. O.  
青学大G

11位の朝鮮大と10位の拓大、同勝点同士の関東リーグ残留を賭けた一騎打ち。引き分けの場合は得失点差で拓大が残留となるが、ここ数年残留争いを経験しているという意味では朝鮮大に分がある。天国と地獄を分かつ“残留決定戦”は最後のホイッスルまで目が離せない。朝鮮大は前節、青学大と1-1で引き分けた。ピッチをコンパクトに保って組織的な守備からカウンターを狙う戦略で、前半は主導権を握り39分にMF高志煌(1年)が鮮やかなミドルシュートを決めたが、77分に追い付かれてしまった。1-0のあとも守りに入ることなく積極的な攻撃を見せていただけに、「そこでもっとしっかり主導権を握りたかった」(金載東監督)。それでも、6試合勝利がないもののこの3試合は連続引き分けと粘りを見せている。失点が減っているのも明るい材料ではある。あとは奪った後の攻撃への展開を丁寧に、シュートまで持ち込みたい。今節は引き分けが許されない状況だけに、攻めどころと守りどころの意思統一が重要だ。対する拓大は前節、勝点3差の法大と対戦し、1-2で敗れた。勝っていれば降格回避に限りなく近づいたはずだったが、84分に与えたPKを決められ逆転負け。全体的には押されながら先制していただけに、CKとPKで

2点を奪われた悔しい敗戦だった。「非常に残念。もう少し粘りたかった」(玉井朗監督)。拓大は、得点は奪えているものの失点が多いのが課題だ。後半戦は引き分けが多く、勝ち切れなかったことで残留争いを抜け出すことができなかった。引き分けでよい点は優位ではあるが負けは許されない状況であり、精神面のコントロールがカギとなるだろう。

<出場停止>なし  
<前回の対戦>朝鮮大0-1拓大

朝鮮大	拓大
2. 李永照	27. 谷川
17. 高志煌	39. 木野
22. 慎鏞紀	11. 内野
14. 朴利基	4. 金子
21. 康貴成	19. 菅能
28. 金成大	21. 小林
6. 任良太	20. 片
3. 李教俊	41. 森川
9. 高尚人	31. 高橋
24. 鄭壯輝	16. 長沢
4. 許亮	18. 大森

# 法政大学 vs 東海大学

11月23日(土)  
11:30K. O.  
法大G

残留を決めた9位の法大と、降格の決まっている東海大との対戦。法大は少しでも順位を上げたいところ。東海大は後半戦初勝利以降3連敗で10失点と、このところ内容もよくない。最後に意地を見せられるか。法大は前節、拓大との残留争い“直接対決”となる試合を2-1で制した。お互いに負けられない試合は、攻守の入れ替わりが激しい拮抗した内容。後半開始早々に先制点を許したものの、CKから同点に、そして84分にはPKをMF松本大輝(4年)がしっかり決めて勝ち越しに成功した。劇的な逆転劇ではあったが、前半はシュートが2度もゴールポストに阻まれるなど、不運ではあるが得点できるチャンスもあり、試合の流れを左右しかねない拙攻は今節への課題だ。また、「あまりにも簡単に失点してしまった。しっかり人を見てマークする必要があった」(大石和孝監督)という守備の課題も。苦しかった今季の総決算、気持ちよく終われるか。一方の東海大は前節、平国大に1-4で敗れた。第17節で降格が決まってしまったあとは、4年生を多く出場させるなどメンバーを変えながらの戦いとはいえ、ここ2試合は5失点、4失点と守備が崩壊してしまっている。平国大戦は、前半こそ互角の戦いで、先制されな

がらセットプレーで追いついたが、後半はシュートの意識を高めてきた相手を止め切れずに圧倒され、カウンターから攻撃を狙うも単発に終わった。「1対1の対応、チームの結束力が弱かった」(後藤太郎監督)。不本意なシーズンに終わってしまった今季だが、新しい東海大へのスタートを切った初年度でもある。来季の戦いのためにも、新しい東海大らしい内容を見せたい。

<出場停止>なし  
<前回の対戦>法大4-2東海大

法大	東海大
30. 永戸	36. 高橋
16. 松田	27. 北原
27. 田代	34. 吉田
14. 松本	3. 小山
28. 西室	19. 永吉
1. 四宮	41. 中西
5. 岩淵	4. 水野
2. 宗近	25. 溝口
15. 高橋	5. 元田
11. 清水	14. 塩田
17. 森保	8. 梶原

# 関東学院大学 vs 青山学院大学

11月23日(土)  
13:50K. O.  
青学大G

3位の関学大と4位の青学大、勝点2差での対戦。勝ったほうが3位となる。8試合負けのない関学大に対し、青学大は出入りが激しい。前回の対戦はスコアレスドローだったが、今回は決着がつくかどうか。関学大は前節、優勝を狙う首位の東国大に2-1で勝利した。前回の対戦では0-4と完敗していただけに、「どれだけ差を縮められたか楽しみにしていたが、選手たちが自分たちのサッカーをよく表現してくれた」(石村大監督)という納得の白星であった。しかし試合開始早々にPKを与えるというピンチもあり、運よく失点は回避したものの試合展開がまったく逆になる可能性もあった。前半を耐えると57分に先制。67分に一度は追いつかれるが、71分に追加点を奪い突き放した。2得点を記録したリーグ初出場初スタメンのFW井上翔太郎(1年)の起用が的中した。一昨年に続く3位キープを成し遂げたい。一方の青学大は前節、残留争いの渦中にある朝鮮大と1-1で引き分けた。ここ2試合は連続引き分け引き分け。第19節で東国大に0-5で敗れて以降、やや守備に気をとられ過ぎているのか3試合で得点は1と低調で、朝鮮大戦では少しメンバーも変更して臨んだが、

残留を狙ってコンパクトにブロックを形成してきた相手の守備を崩し切れず。前半にセットプレー崩れから先制され、後半は選手交代により流れをつかんで同点に追い付いたが、シュートが少なく勝ち越しはならなかった。「相手の勢いに押され、降格の可能性を背負うチームとの差が気持ちや球際のところで出たと感じる」(宮崎純一監督)。最終節、得点力を発揮できるか。

<出場停止>なし  
<前回の対戦>関学大0-0青学大

関学大	青学大
4. 久保	3. 早田
11. 萱沼	11. 本城
2. 吉田	2. 石原
3. 土館	10. 木澤
9. 富樫	28. 三田
30. 井上	34. 井端
1. 守山	12. 高橋
7. 太田	14. 伊藤
27. 原島	25. 御牧
8. 山本	7. 荒木
5. 山口	20. 服部

# 神奈川大学 vs 平成国際大学

11月23日(土)  
13:50K. O.  
法大G

5位に浮上した神大と、8位の平国大との対戦。どちらも勝てば順位を上げる可能性がある。神大は計12得点で4連勝中、一方の平国大は前節こそ4得点したが基本的に少ない得点で勝点を獲得してきており、3連勝中で5試合負けなしだ。対照的な勝ち方だが、好調チーム同士だけに好ゲームを期待したい。両者とも中盤の攻撃の起点となる選手が出場停止で、この対策が鍵を握る。神大は前節、東農大を5-0で下して順位を上げた。終始、ゲームを支配してシュート数も14-2と圧倒。前半こそフィールドからの1得点にとどまり、課題の決定力不足を露呈したかと思われたが、後半はサイド攻撃から、ドリブルからと多彩な攻撃を見せてすべて流れの中から次々に加点した。FW伊東純也(3年)はハットトリックを達成し、得点王に王手をかけることになった。「結果だけを見ると非常によかったが、前半の入り方がよくなかったのは課題」(高峯弘樹監督)。今節は好調の平国大が相手だけに、序盤から流れをつかみたい。その平国大は前節、東海大と対戦して4-1で勝利し、3連勝を飾った。18分に先制後、前半はセットプレーから追い付かれて終わったが、後半は完全に主導権を握って次々と攻撃を仕掛け、後半だけでシュート13

本を放ち、3点を追加した。しかし、西川誠太監督が「ゴールに向かうメンタリティの弱い選手が多い。ハーフタイムに人を代えながらそういう面の指示は出した」と話したように、前半の課題を改善したゆえの大量得点であった。今節は攻守の要であるMF本田圭祐(4年)の出場停止が痛い。2年連続残留を決めた今季、昨季の順位(8位)を越えられるかどうか。

<出場停止>武田将平(神大)、本田圭祐(平国大)  
<前回の対戦>神大3-1平国大

神大	平国大
2. 柿崎	13. 竹内
8. 須郷	19. 堀越
4. 向山	26. 小松崎
10. 伊東	5. 鎌田
16. 前田	9. 星子
1. 阿部	21. 荒川
7. 長野	10. 堀越
26. 内野	3. 深井
14. 芦野	2. 須藤
22. 伏木	34. 佐藤
6. 秋山	16. 増田